

## 信州いいなか里山泊覧会イーラ

### 取組に至る背景・事業の目的

行政に任せるばかりではなく、民間が主体的に地域活性化に取り組むための方向性として人口の増加を掲げた。それに基づき交流人口、滞在人口の増加を図り、その中から新しい産業を生み出していくことを目指している。

足元にある地域資源を発掘し、人材育成や仕事起こしの芽を育てる「オンパク（温泉泊覧会）」のまちづくり手法に出会い、「信州諏訪温泉泊覧会ズーラ」との連携により「イーラ」を平成22年に立ち上げた。平成24年度は飯島町・中川村だけでなく駒ヶ根市・宮田村も加え事業展開を拡大し取り組んだ。

### 事業内容

地域資源を活用した体験交流プログラム「オンパク」の手法による「信州いいなか里山泊覧会イーラ」を開催した。

事業実施段階で、事業名称を「飯島町」、「中川村」の「いいなか」から「宮田村」、「駒ヶ根市」を加えた「みなこい」に変更し、4市町村のネットワークを構築し全ての体験交流プログラムについて住民公募を実施した。

また、講演会やワークショップを開催しプログラムを作り込み、その過程で女性の感性を活かし女性を中心とするプログラム企画チームを設置するなど、洗練されたプログラムづくりも可能となった。



【イーラプログラム・薪割りから始まる新釜カンパーニュ】

### 事業効果

飯島町・中川村だけでなく、駒ヶ根市・宮田村の行政や観光協会、商工会議所などの協力を得ることができ、また実行委員会にも住民の参加をいただいた。両市村に於いては初めての開催となったが、平成25年に向けて周知が十分出来た。

これまでの懸案だったプログラム企画に取り組む女性中心の「企画チーム」を設置し、洗練されたプログラム企画づくりの体制が整った。また、インターネットを介して資金を募るクラウド・ファンディングについて研究を深めるなどファンド・レイジング（活動に必要な資金を集めるための手法）についての研究を行い、資金確保に向けて多様な方策を探った。

3回目となるイーラは地域の一層の認知を得て、10月～11月の1か月間で、64の体験プログラム、地元住民を中心に約800名の参加を得た。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域資源を有効に活用していくためには、行政単位ではない広域連携が必要となる。多岐にわたる協力者が必要となる本事業は、関係者の意思疎通や参加協力体制の構築に時間がかかった。
- 住民への周知に向け様々な広報手段を活用したが、費用のかからない方策の検討も必要である。
- 事業の安定的な継続には資金とスタッフの確保が重要である。事業理念に共感してくれる企業、団体などからの資金集めや、幅広い年齢層へのボランティアスタッフとしての参加呼びかけに一層力を入れていきたい。
- 「イーラ」の体験交流プログラムから生まれたコミュニティビジネスなど、小さな芽が出始めている。一方で、「イーラ」自体は収益を生み出す事業ではないため、「イーラ」を活用した新事業を多様な主体との連携により展開し、効果を対外的にも示していく必要がある。

### 【選定のポイント】

2年間の取組をふまえ、開催地域の拡大や4年目以降継続させていくための取組を積極的に実施したことにより、「イーラ」の認知度を高め、地域住民の自主的な参加型事業として定着を図ることができ、極めて優れた取組となった。

団体名	特定非営利活動法人 飯島中川政経人会議（飯島町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-96-0103（小林正明）	事業費	3,036,483円
ホームページ	<a href="http://www.npoiinaka.jp">http://www.npoiinaka.jp</a>	支援金額	1,728,000円
メールアドレス	info@npoiinaka.jp		